

Book Review

お口の健康ア・ラ・カルト

鴨井久一 著



Reviewer

吉江弘正

(新潟大学大学院教授・日本歯周病学会理事長)

A5判, 184頁
定価 2,730円
(本体 2,600円+税 5%)
医歯薬出版刊



本書は、歯科治療のなかで行われる歯科医師と患者さんとの対話、患者さんからの疑問点、疾患や治療に対する考え方などについて健康雑誌『いきいき』で連載したコラムをもとに、Q&A形式でまとめたものである。内容は、歯科疾患の予防や治療について重点を置いているが、口の役割、口と全身との関わり、歯科医療全般についても言及している。

著者の鴨井久一先生は、約40年にわたって日本歯科大学で歯周病学を専門に、教育、研究、治療に携わり、現在は日本歯科大学の名誉教授となっている。また、日本歯周病学会においても理事、各種委員長、理事長、監事を務めあげ中心的な役割を果たされるとともに、多くの専門書ならびに一般書を執筆されている、まさに日本を代表する先生と言える。

本書は、第1章の「歯周病」から始まり、「むし歯」「口腔、歯周病と関連した体の病気」「入れ歯の知識」「顎・

歯の構造からみた噛み合わせ」「薬、高齢者の歯科治療、口腔ケア」と現在日本が直面している課題も含めて、幅広いテーマが記載されている。

本書の内容の多くを占める歯周病は、歯周ポケットを介した歯周病原菌の感染症であり、現在では全身の臓器にさまざまな悪影響を及ぼす病気として認知されている。本書においても、歯周病の原因、検査、診断といった基本的事項から、基本的な治療法、先進的治療法、さらには日常において実施可能な予防法についてまで、一般の患者さんにもわかりやすいよう平易な言葉で明解に記載されている。また、歯周病と全身に関するテーマでは、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、肥満、アレルギー、心臓血管疾患、早産、骨粗鬆症との関連、さらには生活習慣病としての一面、遺伝的影響なども記載されており、歯科医師が読んでもためになる内容となっている。

そのほか、基本的なむし歯の知識が

ら、最新の予防・治療法、咬むことの大切さ、歯ぎしり、いびき、顎関節の病気にまで言及し、歯科治療の多くを占めるクラウン、ブリッジ、義歯、さらには近年話題のインプラントまで解説されている。

また、周知のように日本は超高齢社会となり、「高齢者対策」が喫緊で最重要課題となっているが、本書ではこの課題についても焦点をあてている。介護、寝たきり、摂食・嚥下障害、多種疾患罹患、多種薬物投与など、高齢者のいる現場で切実となっている問題、課題に対して適切な回答がコンパクトにまとめられているのが印象的である。

現在、歯科医療はエビデンスを基本として、患者本位の姿勢、信憑性のある必要最小限の知識、的確な検査・診断、正確で安全な技術が、何よりも求められている。本書は、これらの要求に対して、まさしく的確に表現した読者フレンドリーな書物であり、一読することをお勧めする。